

佳作

お父さんになった夏

茨城県つくばみらい市立陽光台小学校五年

佐藤 梢吏

ぼくはこの夏、習っている陸上のコーチからカブト虫の幼虫をもらい、育てることになりました。幼虫はコーチの実家の長野からもってきてくれたもので、最初見せてもらった時は、想像以上に大きくてとてもびっくりしました。白くて太く、うねうねと体を動かすその姿を見て、本当にこれがカブト虫？黒くてかっこいいカブト虫になるの？と、とても不安でした。今までカブト虫をかったことがあるけれど、幼虫から育てるのは初めてだったので、この日からぼくの子育てが始まりました。

まずは、カブト虫の一生について図かんやネットで調べることから始めました。カブト虫の幼虫は、ふ葉土や昆虫マットが必要でケースに入れて、マットがかんそうしないようにきりふきをして加したり、フンのそうじをしたりしました。そして幼虫の様子が気になり、毎日こまめに観察をしました。

そして何日か経った朝、お母さんに、「カブト虫が出て来たよ！」

と言われ、急いでケースを見てみると、りっぱな角のあるオスのカブト虫が動いていました。ぼくは嬉しくなって、ねていた弟にもすぐに伝えてあげました。弟もびっくりして、家族みんな喜びました。あの幼虫がこんなにかっこいいカブト虫になったなんて信じられない気持ちと生命の力強さを感じました。

毎日たくさんゼリーを食べていても元気で、とってもかっこよくて、かわいいです。子供の成長を見守るお父さんになった気分です。これからも大切なお世話を続けていきたいと思っています。

最初は幼虫が土の中にもぐっていて様子が見えなかったの、「大丈夫かな…ちゃんと生きてるかな」と不安な気持ちと「がんばって大きくなるんだよ」と応援してあげたい気持ちとでかっとうしていました。

それから何日かして、ケースの表面に幼虫が移動して見えるようになりぼくはうれしくて毎日成長の様子を見ました。すると、まるでおどっているかのように体をくねらせて回転したり、ぼくも見ているのが楽しくてついまねをしておどったりしていました。少しして、だんだん白かった幼虫が茶色くなり、その変化にとてもおどろき感動しました。もう少しでさなぎになるのかなあと、ドキドキしながら観察していると、ついにさなぎになって角が見えオスだと分かり、

「やったあ！オスだ！」

と、ぼくは声をあげて喜びました。

さなぎになったらあまりしげきを与えてはいけなさと友達から聞いていたので、ぼくはそっと見守りました。何日も動かないので、心配でしかたなかったけれど、だんだんと黒くカブト虫らしくなってきた、あとちよっとだと思いい、出て来る時を応援しながら待っていました。